

## 技術勉強会を通じた専門知識の強化で生き残りを図る

### 山梨県配電盤工業協同組合

山梨県配電盤工業協同組合（小倉喜八郎理事長 組合員7社）は10月8日（火）、笛吹市の新星電機(株)において、技術勉強会を開催し組合員の従業員など16名が参加した。

発電所で発電された高圧の電気は複数の変電所を経ながら電圧を徐々に下げ需要先に届けられる。工場やビルなどの大口需要先には、最終的に事業所内に設置された配電盤で低圧に変圧された後、分電盤によって各フロアの照明やコンセント等に分配されている。今や企業活動は“停電＝事業停止”と言えるほど電力に頼らざるを得ない状況となっており、給電に用いられる配電盤や分電盤、制御盤などの製造や設置等を行っている組合員の役割は重要になっている。

今回の勉強会は、講師に三菱電機(株)配電制御技術グループの松木伸伍氏を招き、「低圧電路における各種遮断機の保護協調」をテーマに行った。「保護協調」

とは、電気系統に過電流や漏電等の事故が発生した場合、事故が発生した回路のみを速やかに切り離し健全回路への給電を継続することでトラブルの拡大を防止する技術。ユーザーの電気事故による被害を最小限に食い止めるため、配電盤等の設計と製造にとって重要な技術となっており、受講者はメモを取りながら熱心に聴講し有意義な勉強会となった。

組合では、『顧客のニーズに合ったオリジナリティと最先端の技術で納期と品質を守り、社会貢献を通して将来への発展と生き残りを図る』をスローガンに活動を行っているが、今回の勉強会はその一環として企画した。

業界では人手不足や人材確保が課題となる中で、限られたマンパワーを活かす上で各人のスキルアップが不可欠なことから、組合としても常に最新の技術や製品の情報の提供と習得に努めていくこととしている。



説明を行う松木氏

